

2005年度 中間決算説明会

2005年8月15日 (東証一部 9449) GMOインターネット株式会社



中間決算説明会スケジュール

はじめに本説明会の要旨とご報告

第 1 部 2005年度中間連結決算概要

及び今後の見通し

第 2 部 インターネット金融事業への参入

第 3 部 事業セグメント毎の状況

- (1) インターネット活用支援事業(ネットインフラ事業)
- (2) インターネット集客支援事業(メディア事業)

※このプレゼンテーション資料には、2005年8月15日現在の将来に関する前提、見通し、計画等に基づく予測が含まれています。 世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の実績が記載の予測と大きく 異なる可能性があります。



くご報告>

オリエント信販株式会社株式の取得について



オリエント信販株式会社の発行済み株式71,867株(所有割合94.28%、取得価額25,041百万円※)をユニゾン・キャピタル株式会社の投資ファンドより取得し、同社を子会社化することを本日8月15日開催の取締役会で決議いたしました。

(※最終的には潜在株式を含めた100%取得で280億円程度に なる見込み)



<本説明会の要旨>

く戦略ハイライト>

- ・ 金融業に参入決定。今後はネットインフラ事業、メディア事業、金融事業の3本柱に。
- ・パーソナルファイナンス事業参入のため、非対面特化型パーソナルファイナンスのオリエント信販がグループジョイン。
- ・上記買収により通期業績見通しを売上高380億円、経常利益45億円に上方修正。

(百万円)

	2005年従来予想	2005年今回予想	増減額	増減率
売上高	34,000	38,000	+4,000	+ 11.8%
経常利益	4,000	4,500	+500	+12.5%
純利益	2,000	2,000	-	_

<業績ハイライト>

- ・ドメイン、サーバー、セキュリティ、クレジットカード決済等のインフラ事業好調。
- Jword販売はやや遅れるも、上昇基調は変わらず。
- ・「おとくライン」の販売環境急変により、業績は影響受けるが、2Qの減益要因は一時的。 営業は大幅縮小化。中間決算時に前倒し損失処理を実施。

	2004年中間期	2005年中間期	中間期見通し	前年同期比	対見通し比
売上高	9,828	14,304	15,500	+ 45.5%	▲ 7.7%
営業利益	1,162	1,122	1,400	▲ 3.4%	1 9.8%
経常利益	1,181	1,154	1,400	▲ 2.3%	▲ 17.6%
純利益	1,748	666	800	▲ 61.9%	▲ 16.7%



【第1部】 2005年度中間連結決算概要 と今後の見通し



2005年度中間決算PLサマリー(連結)

既存ネットインフラ事業好調で増収も「おとくライン」販売環境急変の影響受ける

科目	2004年中間期	2005年中間期	前年同期比	コメント
売上高	9,828	14,304	+ 45.5%	サーバー等既存事業+JWord事業により増収
事業費	3,719	6,139	+ 65.1%	営業人員人件費増加等
販売費及び一般管理費	4,946	7,041	+ 42.3%	人件費、のれん償却増加等
営業利益	1,162	1,122	▲ 3.4%	
営業外収益	34	112	+ 222.7%	
営業外費用	15	80	+ 423.6%	
経常利益	1,181	1,154	A 2.3%	
特別利益	3,377	1,486	▲ 56.0%	子会社株式上場によるみなし変動益など
特別損失	572	1,309	+ 129.0%	「おとくライン」の営業規模縮小による損失計上など
税金等調整前純利益	3,986	1,331	▲ 66.6%	
法人税等	2,101	553	▲ 73.6%	
少数株主損益	136	110	1 8.7%	
純利益	1,748	666	▲ 61.9%	



2005年度中間決算 B/S(連結)

短期借入金返済により負債ならび総資産が減少

<資産の部>	2005年度1Q	2005年度2Q	前Q比增減	備考
流動資産	15,568	15,704	135	
現金預金	10,977	11,467	489	
売掛金	3,501	2,810	-690	
繰延税金資産 その他	248 1,211	633 1,122	384 -90	
プログログログ	- 370	-329	-90 -40	
固定資産	13,153	11,782	-1 37 0	 有形固定資産。投資有価証券の売却による減少
資産の部合計	28,722	27,487	-1,234	
<負債の部>				
流動負債	10,966	9,309	-1657	短期借入返済
固定負債	668	691	23	
負債の部合計	11,635	10,001	-1634	
<少数株主持分>				
少数株主持分	3,539	3,858	319	
<資本の部>				
資本金	3,311	3,311	-	
資本剰余金	5,289	5,309	20	
利益剰余金	4,980	5,024	43	
その他有価証券評価差額金	77	31	−4 5	
為替換算調整額	11	13	2	
自己株式	-122	-62	-59	
資本の部合計	13,547	13,627	79	
負債・少数株主持分・資本合計	28,722	27,487	-1,235	



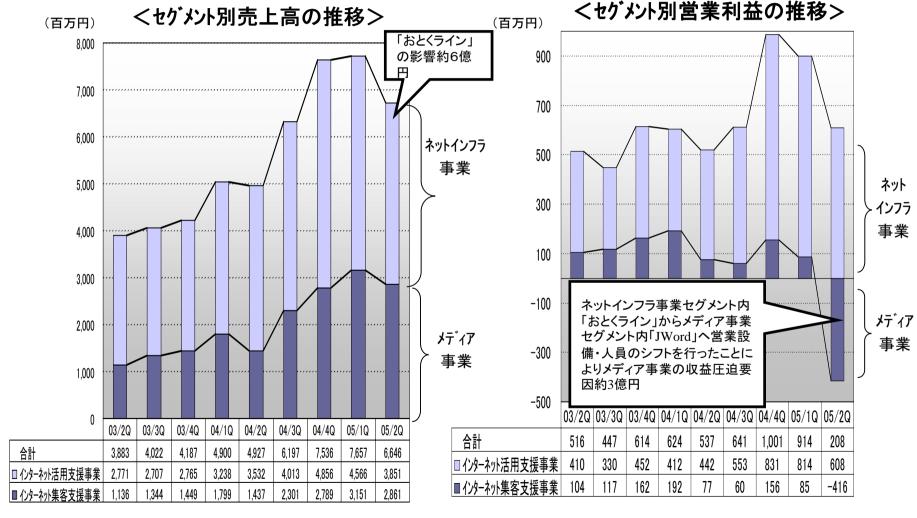
2005年度中間決算 CF計算書(連結)

納税の影響が大きくキャッシュフローは8百万円のプラス

	2004年度中間	2005年度中間	
営業活動によるキャッシュ・フロー	494	-378	
税金等調整前当期純利益	3,986	1,331	
減価償却費	196	289	
貸倒引当金増減額	-89	- 54	
投資有価証券売却益	−3,316	- 446	
売上債権の増減額	-213	806	
法人税等の支払額	-933	-1,779	
その他増減	864	-523	
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,627	-412	
無形固定資産取得による支出	-787	-302	
子会社株式取得による支出	-30	−265	
投資有価証券の売却による収入	4,096	828	
投資有価証券の取得による支出	-323	-1481	イーバンク銀行追加取得
貸付金の実行による支出	-103	-102	
貸付金の回収による収入	20	43	
その他増減	−245	867	
財務活動によるキャッシュ・フロー	19	797	
少数株主への株式発行による収入	11	1,255	子会社上場による資金調達
その他増減	8	-457	
キャッシュ・フロー合計	3,140	9	
現金等同等物の期首残高	8,524	11,319	
連結子会社の増加に伴う増加	36		
現金等同等物の期末残高	11,701	11,327	



売上高と営業利益推移(連結) おとくラインの営業人員・設備のJword営業シフトにより メディア事業収益が一時的に悪化





第2四半期の減益要因と今後の課題

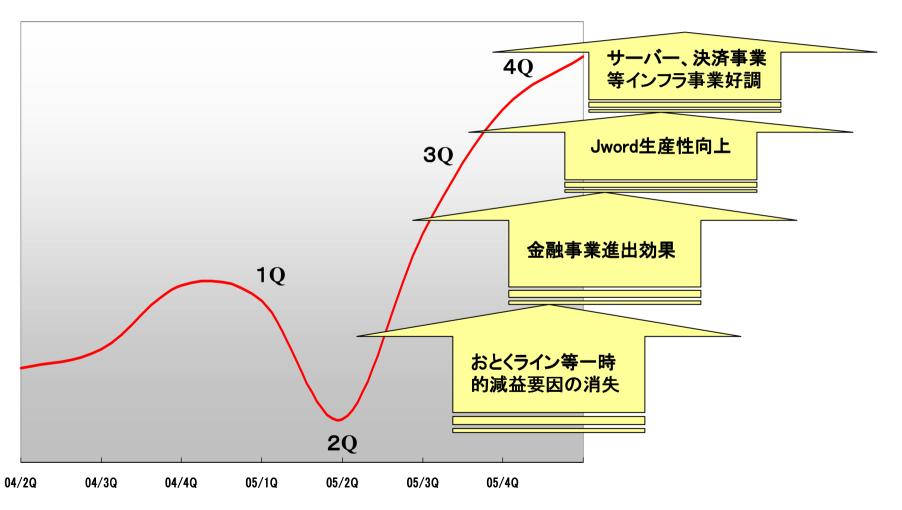
中間決算における前倒し損失処理実施により、今後収益は改善基調に 一減益要因は一時的であり今後の影響は限定的一

要因	2Qでの影響	対策	今後の見通し
日本テレコム「おとく ライン」の販売環境 の急変	2Qにおいて約3億円 の利益圧迫要因	中間決算時にオフィス、機器含めて損失処理。人員をJword 営業にシフト	ランニングベースで3億円ほど軽減
Jwordの販売生産性 の遅れ	おとくラインからの予定外の人員シフトにより生産性が伸び悩み	営業人員の教育、プロダクトラインアップの充実化による生産性の改善	3Qにおいて生産性の改善によりブレイクイーブン
広告販売事業の2Q の一時的落ち込み (一時的費用支出、 季節的要因など)	1Qに比較して約1.8 億円ほどの利益マイ ナスインパクト	一時的支出の軽減、 営業効率、商品ライ ンアップの強化	3Q以降は、改善傾向に



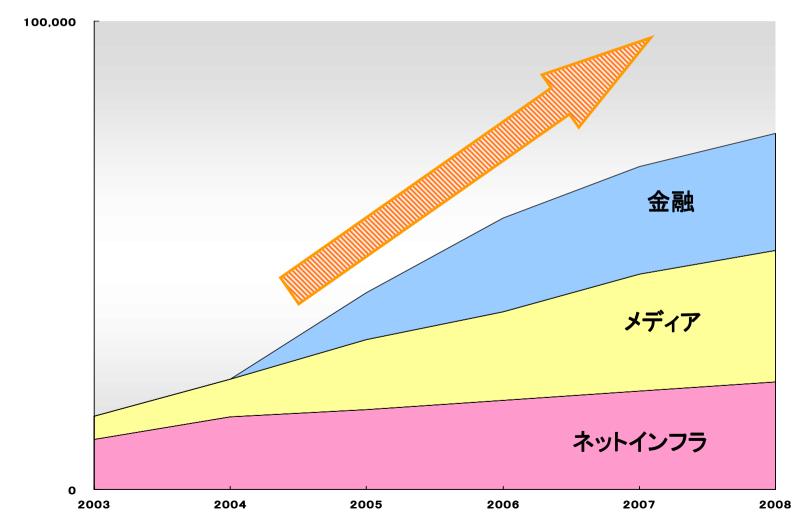
第3四半期以降のシナリオ

インフラ事業の好調、Jword生産性上昇、金融事業進出により利益は急回復へ





中期的な収益の成長イメージ 金融事業の参入により成長は更に加速!

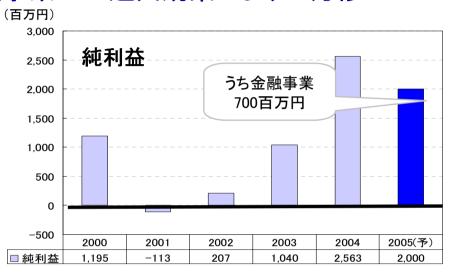




2005年度通期業績見通し(連結)

おとくラインのマイナス面あるも金融事業への進出効果により上方修正







	2005年度 通期予想	前年比	2004年度 通期実績
売上高	38,000	+ 61.3%	23,561
経常利益	4,500	+60.4%	2,805
純利益	2,000	- 22.0%	2,563

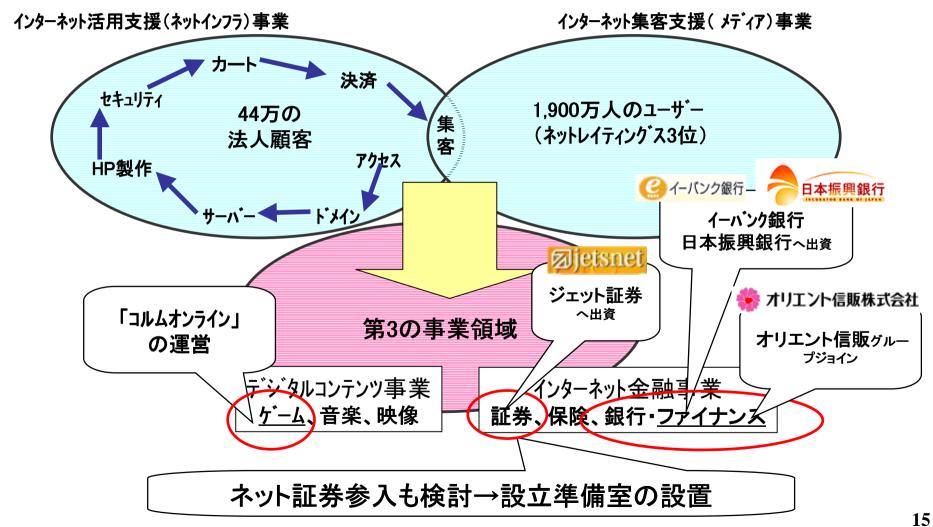


【第2部】 インターネット金融事業への参入



グループの戦略シナジー

インターネット総合企業が進出する次の領域とは





なぜパーソナルファイナンスからスタートなのか?

- インターネットマーケティングにより成長を加速させ、「ネットNO1」を狙う事が可能
- インターネットマーケティングとの親和性は非常に高い
 - -ネット広告出稿は増加基調

参考①

2005年4-6月、ヤフーへの広告金額の増加率最多業種は金融・保険・証券(24%)。 うち、上位広告主はアイフル、オリックス・クレジット、モビット (ヤフージャパン開示資料より)

参考(2)

GMOインターネットグループの取扱広告においても上位を占め、特に新興系中心に上昇基調。

-新興系、ネット各社は積極展開











オリエント信販の概要(1)

ビジョン

- -強い女性ブランドを持つファイナンス企業
- -女性の新しい生き方、自立・独立する女性を応援していく『ウーマンズ・バンク』
- -変化する女性、その女性のライフスタイルを資金とサービスで積極的にサポートする 「パーソナルファイナンスサービス」企業







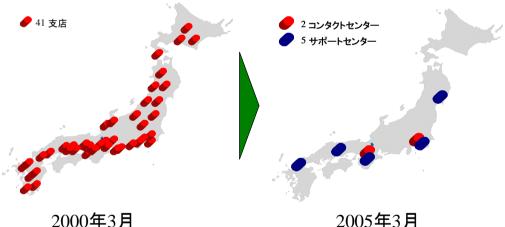
オリエント信販の概要②

特徴

一流の経営陣・ユニゾンによる5年の経営革新

ユニゾン・キャピタル株式会社は、平成10年(1998年)に設立された日本におけるプライベート・エクイティ投資のパイオニアであります。 投資先企業の価値を長期的に高めるための戦略を立案し、果断に実行しており、主な投資先としましては、株式会社マインマート、 株式会社東ハト、株式会社ドラックイレブンなどがあります。

- □非対面(無店舗)
 - システムを最大限に活用した、拠点の集約と機能
- □差別化戦略 女性のプライムからセミプライム層を重視
- □ IT化推進 システム推奨値と与信専任担当者の裁量を 相互補完させた与信審査、最新鋭コールセンタ・



- □高収益プラットフォーム
 - •貸付金残高約809億円(※) ※2005年3月現在 オフバランス化されているSPC譲渡債権620億円含む
 - *業績(2005年3月期) 営業収益 192億円、営業利益 25億円 (2006年3月期は」営業利益約40億円を見込む)



オリエント信販の概要③ バランスシート

営業貸付金620億円 が流動化されており、スリ ムなバランスシートとなっ ている。

オンバランスの営業貸付金は189億円

貸借対照表(オリエント信販株式会社 平成17年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部		
	金額	科目	金額	
流動資產	22,91 4	流動負債	17,728	
固定資産	11,905	固定負债	6,342	
有形固定资産	234	負债合計	24,071	
無形固定資産	1,536	資本の部		
投資その他の資産	10,134	资本金	6,499	
繰延資産	76	資本剰余金	2,316	
		利益剰余金	2,008	
		株式等評価差額金	0	
		资本合計	10,824	
资産合計	34,896	負債及び資本合計	34,896	

(注)1.有形固定資産の減価償却累計額

185百万円

2.商法施行規則第124条第3号に規定する純資産額

0百万円

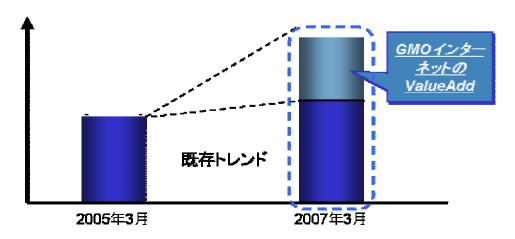


GMOグループによるValueAdd

「創業~基盤確立期」、「ユニゾンによる経営革新期」を経て、「GMOインターネットグループによるインターネット加速期」へ

ValueAddの方向感
インターネットマーケティングのノウハウ移転
GMOインターネットグループトラフィックとの連携(Blog、Feedme、メール媒体、RSS)
モバイル連携強化
イーバンク銀行との連携強化

• 成長イメージ



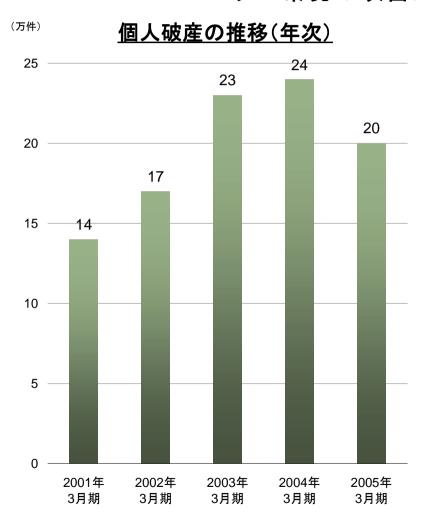
・他社事例:楽天クレジット

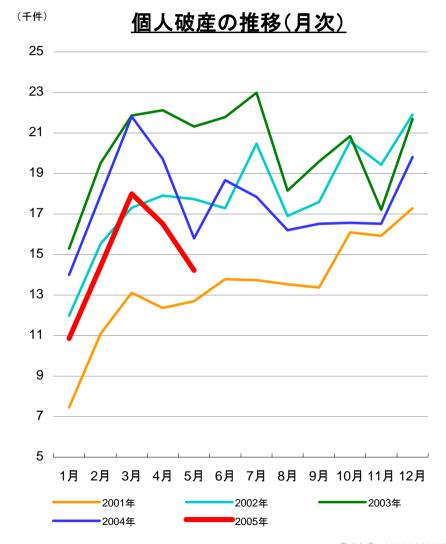
楽天が買収後、 グループ集客強化等により、 貸付残高66%増、 20代顧客が急増



業界を取り巻く状況

マクロ環境の改善により、個人破産も減少



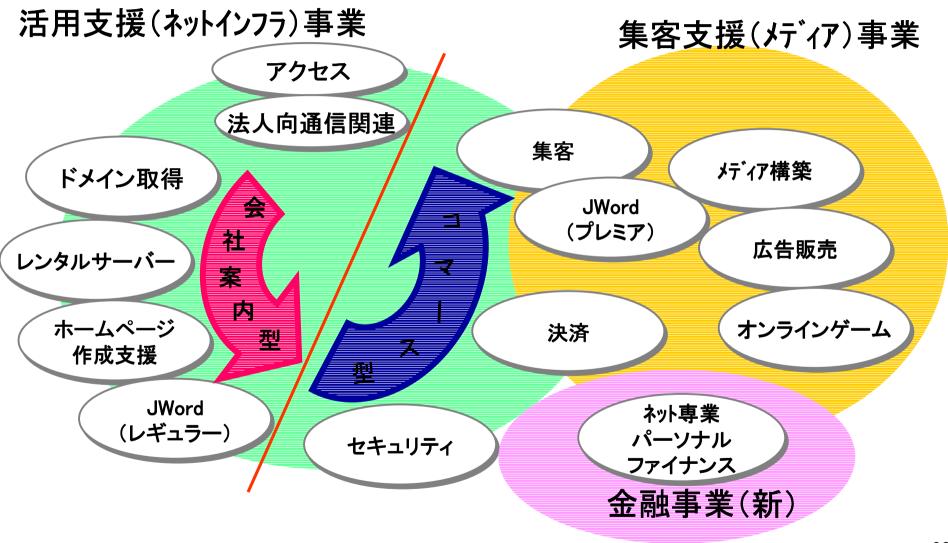




【第3部】 事業セグメントごとの状況



事業セグメント相関図(プロダクトサイクル)



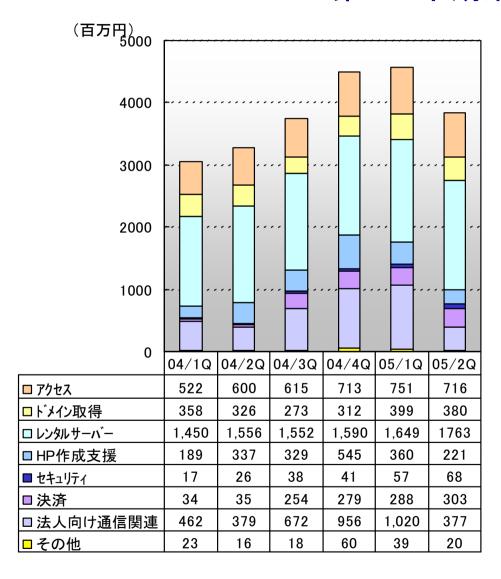


事業別の状況 売上サマリー

事業	2004/2Q	2004/3Q	2004/4Q	2005/1Q	2005/2Q
インターネット活用支援事業(ネットイ)	シフラ事業)		•		
アクセス	600	615	713	751	716
ドメイン取得	326	273	312	399	380
レンタルサーバー	1,556	1,552	1,590	1,649	1,763
ホームページ作成支援	337	329	545	360	221
セキュリティ	26	38	41	57	68
決済	35	254	279	288	303
法人向け通信関連	379	672	956	1,020	377
JWord	254	259	355	-	-
その他	16	18	60	39	20
セグメント合計	3,532	4,013	4,856	4,566	3,851
インターネット集客支援(メディア事業)				
インターネットメディア構築	819	787	916	630	447
インターネット広告販売	992	1,898	2,003	1,944	1,587
JWord	-	-	121	698	834
オンラインケーム	-	1	82	180	210
その他	17	26	36	34	19
セグメント内部取引消去	(392)	(411)	(370)	(336)	(237)
セグメント売上合計	1,437	2,301	2,789	3,151	2,861
		,			
セグメント間取引消去	-42	-118	-109	-60	-66
連結売上高	4,927	6,197	7,536	7,657	6,646



インターネット活用支援事業(ネットインフラ事業) 第2四半期業績総括



■アクセス事業

前四半期比微減なるも、マーケティング強化を図る

■ドメイン取得事業

- 季節的変動あるものの法人・個人共 に順調。マーケットシェア45%

■レンタルサーバー事業

- 会員数218百人増加と順調に成長

■ホームページ作成支援事業

- 利益率改善を目的として作成業者 仲介への業態にシフトした為、 売上減

■セキュリティ事業

- 引き続き販売は堅調に推移。

■決済事業

稼働店舗数急増、業績予想を上方修正

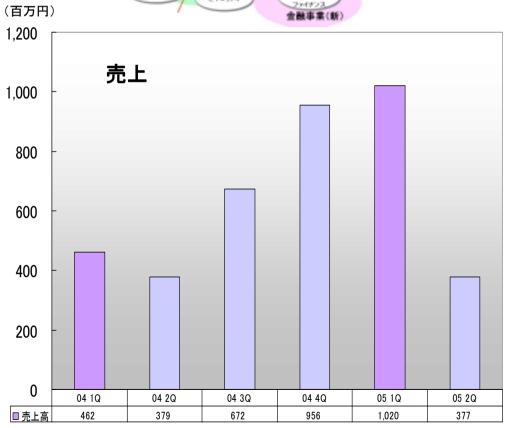
■法人向け通信関連事業

- 業界の動向に注視しつつ、一時縮小



インターネット活用支援事業(ネットインフラ事業) 第2四半期のトピックスー①法人向け通信関連事業の縮小





■第2四半期業績(直前四半期比)

• 3億7700万円(63%減収)

■売上減少の要因

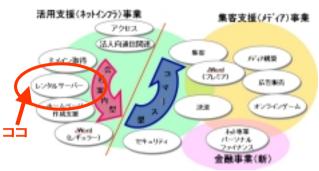
日本テレコム「おとくライン」 販売環境の急変

■今後の対応

- 営業人員・営業設備は JWord販売にシフト (メディア事業へ)
- 中間決算時において営業設備コスト等 を前倒し損失処理し、今後のランニング コストを軽減



インターネット活用支援事業(ネットインフラ事業) 第2四半期のトピックスー②メイクショップ社のグループイン





メイクショップ 韓国で60000サイトの導入実績、53%のシェアを持つ ネットショップ構築支援サービス。 (当社と韓国コリアセンター社との合弁会社として 日本展開)

当社グループのネットインフラ事業の顧客に対して 更なる付加価値を提供

ネットショップ構築支援サービス MakeShop の4大特徴

23-510-



オンライン申し込み、即サービスイン! 使いやすいショップマネージャーと テンプレートで速攻ショップ構築





レンタルサーバー無料 メール提供無料(3つまで) クレジットカード・コンビニ決済OK

1-99-



商品陳列、ネットショップ構成、 デザイン等を選択するだけで ネットショップ簡単作成

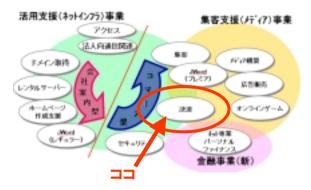
NEED



プレゼント企画・アフィリエイトなど あらゆるプロモーション、販促企画が 簡単操作で独自にできる!!



インターネット活用支援事業(ネットインフラ事業) 第2四半期のトピックスー③GMOペイメントゲートウェイ好調

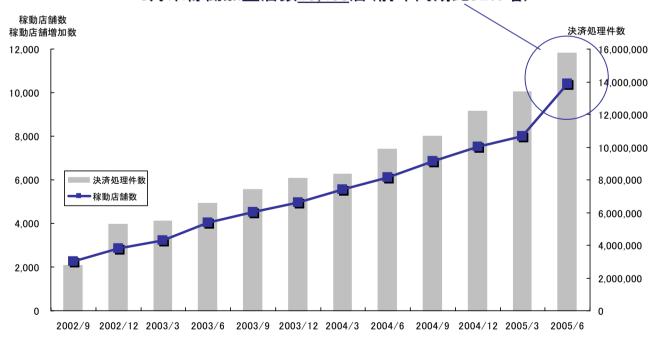




・アライアンス効果による加盟店急増 6月末稼働加盟店数10,408店(前年同期比52%増)

第3四半期(2004年10月~ 2005年6月)実績

- -売上高859百万円、 経常利益188百万円、 第3四半期純利益-29百 万円(連結)※ -2005年9月期業績予想
- を上方修正 ※2004年11月の経営統合に伴う営業権

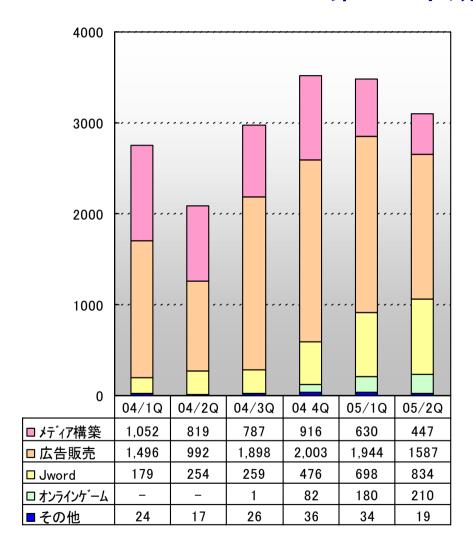


(注)決済処理金額と決済処理件数は四半期累計、稼動店舗数は四半期末ベース

償却約270百円の影響



インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期業績総括



■メディア構築事業

メールメディアは現状を維持、 RSS広告に関する取組みにシフト

■広告販売事業

メール広告販売を維持しつつ、 JWordへの戦力シフトをはかる。

■JWord事業

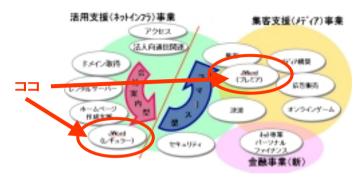
事業単体で成長基調ではあるが、 営業部隊の更なる生産性向上を目指す

■オンラインゲーム事業

イベントの活用により堅調な伸張

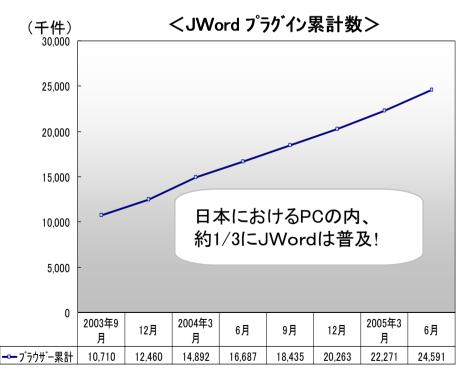


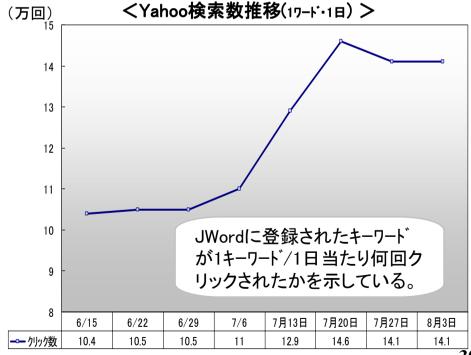
インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー①JWord事業の状況「メディア推移」



🗿 JWord.

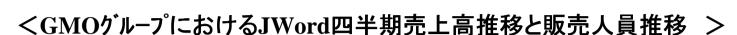
2005年6月30日時点 JWordサービス対応プラグインソフトインストール数累計: 24,591千インストール

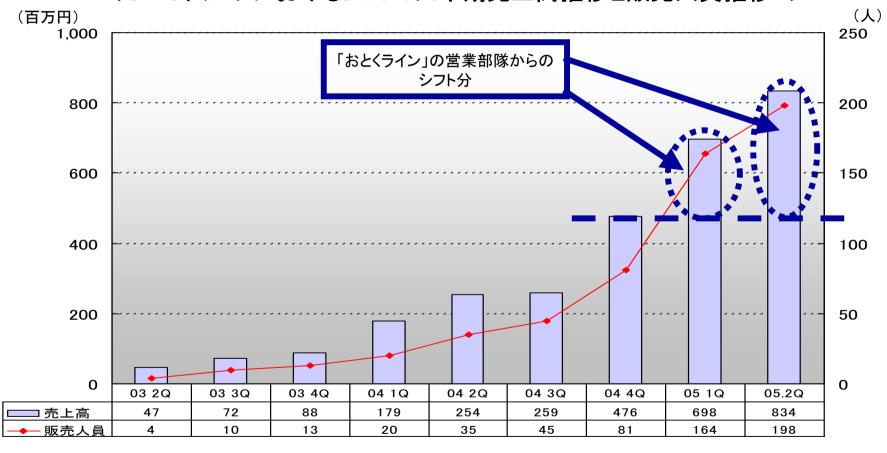






インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー①JWord事業の状況「販売人員の状況」



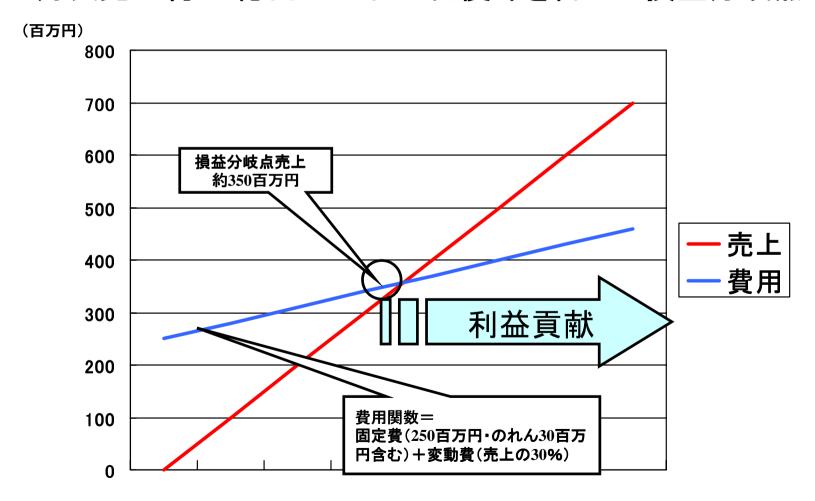


※ 販売人員については2005年1Q以降は、営業スタッフの一稼働日あたりの平均稼動人員となっております。



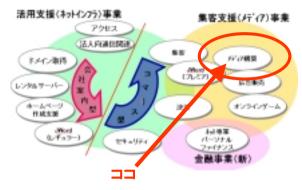
インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー①JWord事業の状況「収益構造(月次)」

月次売上約3.5億円がのれん代償却を含んだ損益分岐点

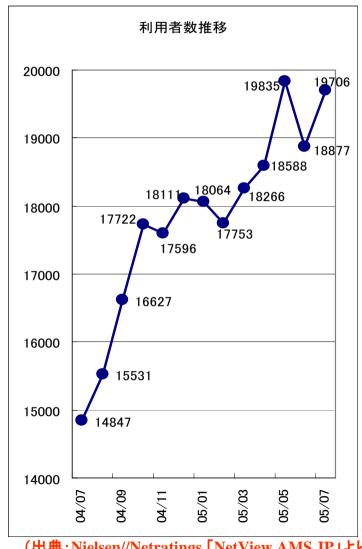




インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー②メディアパワーの躍進続く(その1)



- 1900万強の利用者。
- 利用者拡大要因は
 - 1. ヤプログ!を始めとするBlog サービス利用者の拡大
 - 2. mypopを始めとするRSSリーダー からのトラフィック拡大



(出典: Nielsen//Netratings「NetView AMS JP」より)



インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー②メディアパワーの躍進続く(その2) 利用者ランキングの推移

2004年7月末

利用者数順位	利用者(千人)	リーチ(%)	PV順位
1.Yahoo !	28,899	83.24	1
2.Rakuten	20,817	59.96	2
3.MSN	18,788	54.12	3
4.Nifty	17,067	49.16	4
5.Microsoft	14,981	43.15	27
6.GMO	14,847	42.77	5
7.NEC	14,569	41.97	7
8.Sony	12,344	35.56	9
9. NTT.Com	12,102	34.86	12
10.KDDO	10,002	28.81	18

2005年7月末

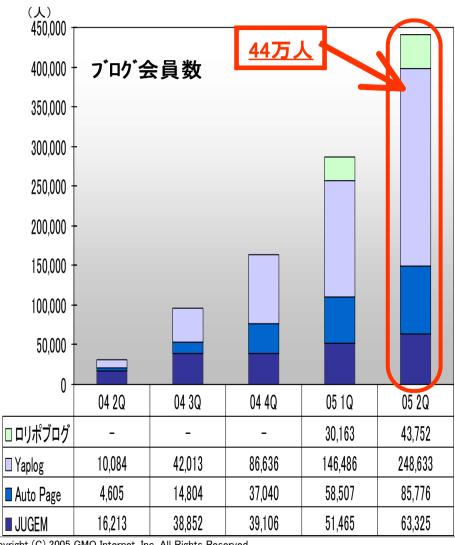
利用者数順位	利用者(千人)	リーチ(%)	PV順位		
1.Yahoo !	32,574	85.29	1		
2.Rakuten	22,978	60.17	2		
3.GMO	19,706	51.6	4		
4.Ms	19,524	51.12	3		
Nifty	19,381	50.75	6		
6.NEC	16,928	44.33	9		
7. NTT.Com	14,926	39.08	17		
8. Microsoft	14,922	39.07	33		
9.NTT-Resonant	12.457	35.24	7		
10.Son - ランキングは6位から3位へ!					

(出典: Nielsen//Netratings 「NetView AMS JP」より)

・利用者1.3倍、1,970万人へ!



インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー②メディアパワーの躍進続く(その3) ロリポブログのスタートにより、メディアパワーと会員数が更に拡大



■コミュニティ事業への進出

個人のお客様へのリーチの機会を増やす

- 1. トラフィックの拡大
- 2. 個人顧客の増加
- 3 広告、コンテンツ収益による売上

■ブログサービス

総会員数:44.1万人

■今後の課題

GMOアフィリェイトとの連動による 広告収益事業モデルなどの確立 >例)FeedMe

ご参考

日記サイト「ヤプース」会員数約19.5万人 ティーカップ 掲示板会員約200万人

menu Myooo

36



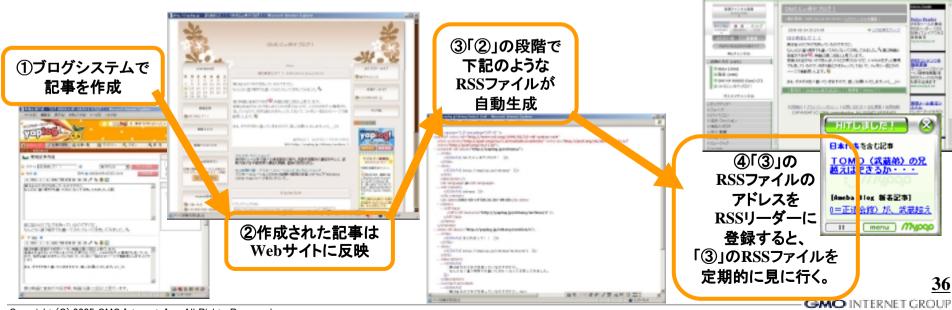
インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー②メディアパワーの躍進続く(補足) 今後の重要なキーワード:「ブログ」「RSS」

ブログ(blog < WebLog)

日記のように記事を書き連ねたサイト。 現在ブログ形式のサイト構築・更新作業を簡単に 出来るシステム(ブログシステム)が発達。 当社グループでは ヤプログ!・JUGEM・AutoPageなどにあたる。 尚、最近のブログシステムにおいては記事の作成と 同時にRSSが生成される。

RSS (Rich Site Summary)

Webサイトの内容を「日時」「題名」「本文」「カテゴリ」 等の要素ごとに要約したファイル。ファイルの構成は 規格統一されている為、各要素を再構成することで、 別の見せ方をさせることも可能。 このことを利用したツールがRSSリーダーであり、 RSSリーダーによって注目しているブログの更新を ほぼリアルタイムに知ることができる。





インターネット集客支援事業(メディア事業) 第2四半期のトピックスー③FeedMeのスタート

FeedMe

展開する予定。

<u>=マッチング率を高めたアフィリエイト広告</u>ページビューに対するクリックレートは0.3% 今後「ヤプログ!」以外のブログサイト等にも

各ブログのRSSを取り込んでDB化 (各ブログサイト内の記事テーマが蓄積される) ⇒記事テーマに沿った広告配信が可能。





37



すべての人にインターネット

